

平成28年2月1日

海外向け地域材製品の開発及び輸出促進セミナーの開催について — 海外消費者重視の木材製品の輸出へ —

一般社団法人 日本木材輸出振興協会

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

近年、国内の木材需給や利用を巡る動向には大きな変化が見受けられます。供給面では、国内需要に応じた地域材の安定的供給体制の構築や、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の発効をにらみ、関税撤廃等による輸入製品の増加に備えた国内木材産業の競争力強化等への施策が始動しています。一方、需要面では、将来的に長期に亘ってわが国の人口が減少していくことが予想され、いままで木材製品の需要を主に担ってきた建築需要は先細りになっていくと見込まれる中、海外の需要を内需として取り入れ、スギ、ヒノキ等地域材の木材製品の輸出に着目・着手している事業者も増えつつあるなど、新たな動きが見られます。

このような中、日本産木材の輸出においては、新興国を中心とした世界の木材需要の増加や、認証木材の採用、木材使用による心身の健康増進などに対する関心の高まりを背景に、官民一体となった種々の輸出促進の取り組みが活発化しています。

一方、木材輸出額は近年大きく増加しているが、素材が約4割を占めており、付加価値の高い製品の輸出拡大が課題となっています。海外の消費者を重視し、現地のニーズや諸条件を踏まえながらこれまで国内で成功してきた商品に改善・改良を加えた「現地市場配慮型製品」やコストパフォーマンスの良い「新たな輸出仕様製品」の開発及び販売促進は、個々の事業者の輸出ビジネスの展開及びわが国の木材輸出の拡大にとって益々重要となっています。

このような重要さに鑑み、近年、当協会は、①輸出相手国のニーズや諸条件を踏まえた輸出仕様の製品や技術の開発、②現地市場に向けた国産材を用いた木材製品の試作や利用実証、③現地国の研究機関との共同研究、④モデル住宅の建築、⑤中国におけるスギ、ヒノキ、カラマツの構造材及び木造軸組住宅の新たな市場を創出する目的で中国国家標準「木構造設計規範」の改訂作業への参画など、海外向け製品の開発及び輸出促進に実践的に取り組んできているとともに、国内産地や輸出に取り組む事業者による輸出向け製品の開発と販売促進をサポートしてきました。

今回は、海外向け製品の開発及び輸出を一層促進するため、林野庁の平成27年度「新たな木材需要創出総合プロジェクト事業」のうち「海外での地域材利用事業」の一環として、下記要領により本セミナーを開催し、異業種の有識者を含む講師の方々から先駆的な取り組みを紹介して頂く機会を設けることと致しました。多くの方々にご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

参加ご希望の方は、当協会HPよりお申し込みください（**※切：平成28年3月4日必着**）。

記

- 日時 平成28年3月11日（金） 13:00～17:00
 - 会場 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター ホール7A（7F）
（住所：東京都新宿区市谷八幡町8番地TKP市ヶ谷ビル）
 - プログラム
 - 開会挨拶（13:00-13:05） 井上 幹博（日本木材輸出振興協会 事務局長）
 - 林野庁林政部木材利用課挨拶（13:05-13:10）
 - 講演の部
 - I 熊本から世界へ ～7坪8席で創業した味千拉麺の挑戦～（13:10-14:00）
質疑応答（14:00-14:10）
講師：重光 悦枝 先生（重光産業株式会社 代表取締役副社長）
 - II 中国向け越秀木市場開拓のABC（14:10-14:40）
質疑応答（14:40-14:50）
講師：邱 祚春 先生（越井木材工業株式会社 中国市場開拓室 部長兼室長）
 - （休憩： 14:50-15:00）
 - III 韓国向け木材製品の開発と輸出取組（15:00-15:30）
質疑応答（15:30-15:40）
講師：吉田 利生 先生（ウッドエナジー協同組合 理事長）
 - IV 台湾向け木造住宅の輸出取組（15:40-16:10）
質疑応答（16:10-16:20）
講師：石川 忠幸 先生（株式会社棟匠 代表取締役社長）
 - 総括の部（16:20-17:00）
木材輸出を巡る情勢及び今後の展望（仮題）
安藤 直人 先生（東京大学名誉教授（特任教授）、日本木材輸出振興協会 会長）
- 定員 100名（定員になり次第、締め切らせていただきます。）

会場の周辺地図及びアクセス情報



- JR 総武線 市ヶ谷駅 徒歩 2分
- 東京メトロ南北線 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩 1分
- 東京メトロ有楽町線 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩 1分
- 都営新宿線 市ヶ谷駅 4番出口 徒歩 2分 (※A4出口ではございませんのでご注意ください。)